



五色台の昆虫

五色台で独自に進化した種、五色台が県内での数少ない貴重な生息地となっている種、五色台北部の玉川河口周辺が四国で唯一の生息地となっている種もいる。



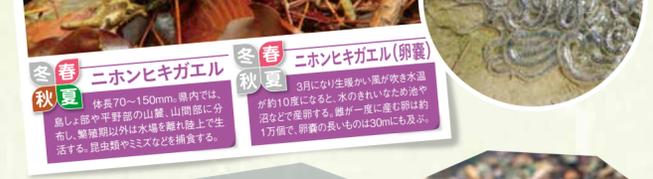
五色台は乾燥した環境が多い。そのためか、乾燥に強い昆虫が14種も生息するのに対し、乾燥に弱い両生類は、6種しか確認されていない。

五色台の両生類・は虫類



五色台の北部には五色台を源とする、青海川や玉川、亀水川が流れている。いずれも5km未満の短い河川だが、それぞれの河口にはハゼ類を中心に希少な魚類が多数生息している。

五色台の汽水域の魚類



五色台の汽水域には、希少な魚類が多数生息している。クボハゼは玉川の河口干潟では普通に見られる汽水魚。アナジャコ類の巣穴を産卵場所や産卵場所として利用する。動物プランクトンや小型甲殻類のほか藻類も食べる雑食性。

五色台の甲殻類



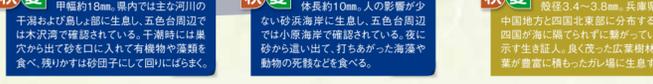
五色台の沢ではサワガニが多く生息するが、時折モクスガニも見つかる。玉川の流入する木沢湾では46種ものエビやカニの仲間(十脚目)が確認されている。



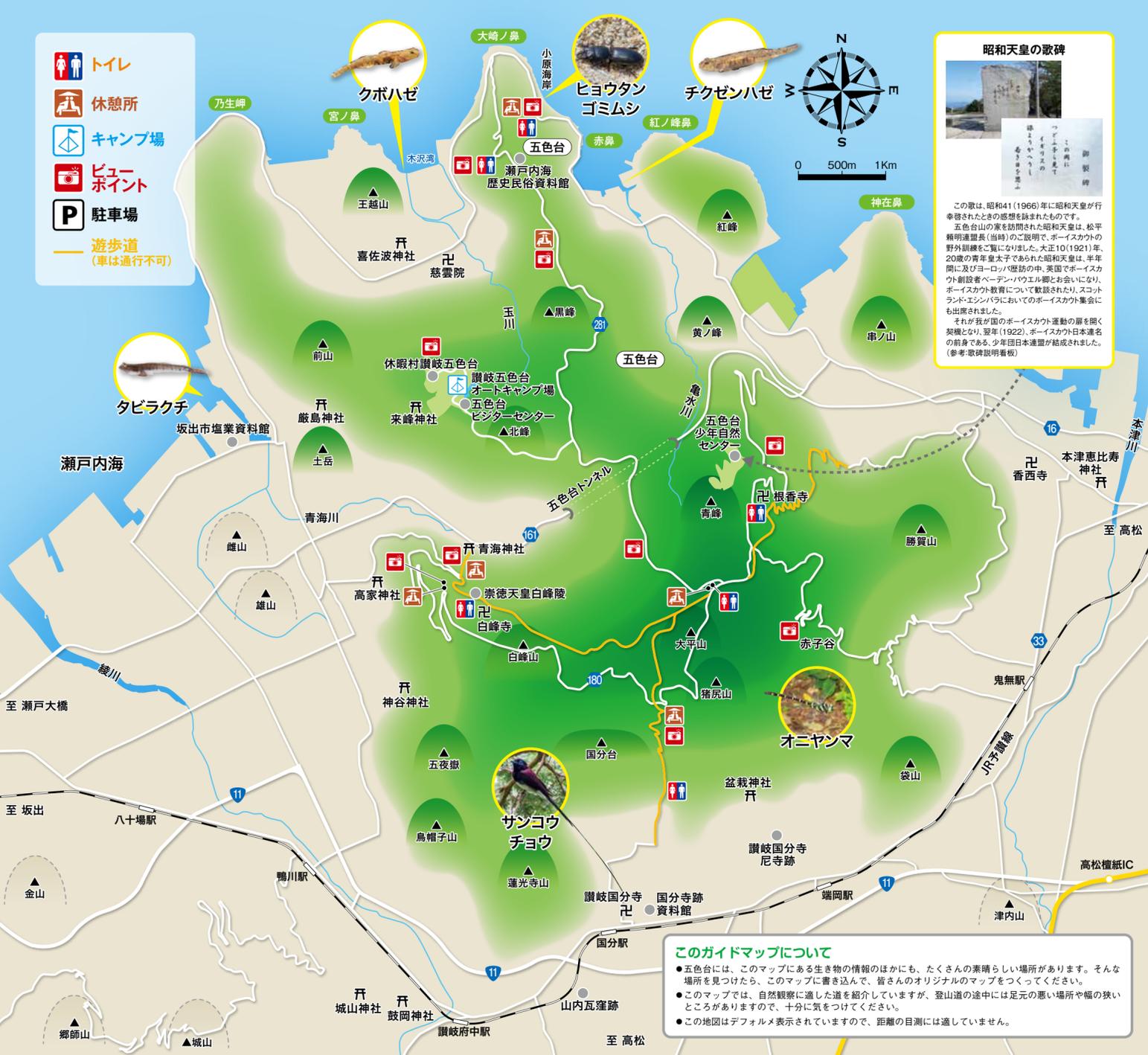
五色台及びその周辺ではそれぞれの環境に適応した様々な貝類が暮らしている。森林では68種の陸貝、池や川では16種の淡水産の貝類、河口では10種の汽水産の貝類、木沢湾では63種の海産の貝類が生息している。



五色台の貝類は、それぞれの環境に適応した様々な貝類が暮らしている。森林では68種の陸貝、池や川では16種の淡水産の貝類、河口では10種の汽水産の貝類、木沢湾では63種の海産の貝類が生息している。



五色台の貝類は、それぞれの環境に適応した様々な貝類が暮らしている。森林では68種の陸貝、池や川では16種の淡水産の貝類、河口では10種の汽水産の貝類、木沢湾では63種の海産の貝類が生息している。



このガイドマップについて

- 五色台には、このマップにある生き物の情報のほかにも、たくさんの素晴らしい場所があります。そんな場所を見つけたら、このマップに書き込んで、皆さんのオリジナルのマップをつくってください。
- このマップでは、自然観察に適した道を紹介していますが、登山道の途中には足元の悪い場所や幅の狭いところがありますので、十分に気をつけてください。
- この地図はデフォルメ表示されていますので、距離の目測には適していません。

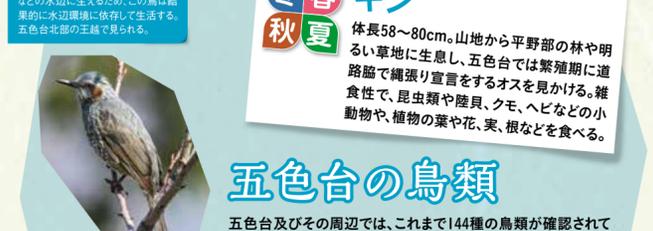
昭和天皇の歌碑

この歌は、昭和41(1966)年に昭和天皇が行幸されたときの感想を詠まれたものです。五色台山の景を訪問された昭和天皇は、松平頼明(当時の)の歌碑で、ボーイスカウトの野外訓練を鑑みられました。大正10(1921)年、20歳の青年皇太子であられた昭和天皇は、半年間に及びヨーロッパを歴訪中、英国でボーイスカウト創設者ベーデン・パウエル卿とお会いになり、ボーイスカウト教育について数談されたり、スコットランド・エンバラにおいてのボーイスカウト集にも出席されました。それが我が国のボーイスカウト運動の扉を開く契機となり、翌年(1922)、ボーイスカウト日本連名の前身である、少年日本連盟が結成されました。(参考:歌碑説明看板)



五色台の鳥類

五色台及びその周辺では、これまで144種の鳥類が確認されている。大崎の鼻は瀬戸内海に突き出て、すぐ先には小槌島や大槌島があるため、危険をさけながら、なるべく姿をして瀬戸内海を渡りたい鳥にとって、渡りの良い中継地点となっている。



五色台の鳥類

五色台及びその周辺では、これまで144種の鳥類が確認されている。大崎の鼻は瀬戸内海に突き出て、すぐ先には小槌島や大槌島があるため、危険をさけながら、なるべく姿をして瀬戸内海を渡りたい鳥にとって、渡りの良い中継地点となっている。



ヒヨドリ

冬 春 体長約30cm。市街地を含む、ある程度樹木のある環境に生息する。秋の大槌島では多いときは数百羽が列をなして岡山県側から飛来し、五色台を越えて南の方へと渡っていく。



サシバ

冬 春 体長47~51cm。4月頃に日本に渡ってくる。里山に生息し、主に両生類や爬虫類、昆虫類などの小動物を食べる。秋の大槌島では30羽以上に岡山県側から飛来し、五色台を越えて南の方へと渡っていく。



ホトトギス

冬 春 体長約28cm。5月中旬頃に日本に渡ってくる。森林や草原の森に生息し、ウグイスの巣に卵を産み落として雛を育てる。肉食性で特にカラムシを好んで食べる。五色台では樹上で巣を築き、鳴き声で周囲に警戒を促す。名歌に歌われている。



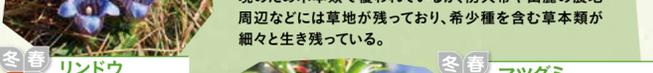
フウラン

冬 春 体長10~20cmの雑食性植物。常緑多年草で、太い根を長く伸ばして、常緑広葉樹林に生えている大木の枝や柄に張り付いて生育する。岩に生えることもある。



キビヒトリシズカ

冬 春 体長20~30cm。明るい林床に生える植物。多年草で、県内では平野部の丘陵・山麓の樹林下に生育する。近年は樹木がうっそうと茂ったために、減少している。野生することが多い。



マツグミ

冬 春 樹高30~50cmの半寄生性の植物。常緑小低木で、マツやモミ、ツガなどの針葉樹に半寄生する事が知られているが、県内では海岸線から山のマツ類を主な宿主とする。



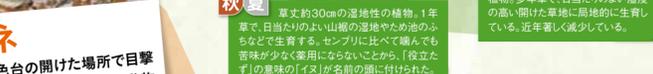
リンドウ

冬 春 草丈30~50cm。半日陰の草地に生える植物。多年草で、主に中山間部の山林の林縁部、農耕地周辺の草地で生育する。群生することが多い。



コキンバイザサ

冬 春 草丈20~30cmの草性の植物。多年草で、日当たりのよい湿度の高い開けた草地や同地に生息している。近年著しく減少している。



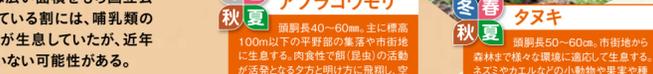
イヌセンブリ

冬 春 草丈約30cmの湿性の植物。1年草で、自生しない山間の湿地やため池のふもとなどで生育する。センブリに比べて味も苦味も少なく食用にならないことから、「没立草」の意味の「イヌ」が名前の頭に付けられた。



アカギツネ

冬 春 頭胴長60~75cm。五色台の開けた場所で目撃されている。写真のようにウサギなどに動物を食べるが、雑食性で果実類も食べる。



アブラコウモリ

冬 春 頭胴長40~60cm。主に樹高100m以下の平野部の雑木や市街地に生息する。肉食性で個(昆虫)の空気が活発となる夕方明け方に飛翔し、空中で捕らえて食べる。冬季は冬眠する。



タヌキ

冬 春 頭胴長50~60cm。市街地から森林まで様々な環境に適応して生息する。ネズミやカエルなどの小動物や果実や種子など様々なものを食べる雑食性。



五色台の菌類

香川県では、これまで647種が確認されており、五色台では312種(香川県全体の約48%)が見つかっている。



キツネノハナガサ

冬 春 傘は直径2~4cm。柄は長さ4~8cmのガラス細工のようなキノコ。森林や竹林の落ち葉などを分解して養分を吸収する腐生菌。単独で発生する。



シロオニタケ

冬 春 傘は直径9~20cm。柄は長さ15~22cmの全体が真っ白なキノコ。菌根菌と考えられているが詳しいことは分かっていない。広葉樹(ブナ科)や針葉樹(マツ科)の根木の下に単独で発生する。



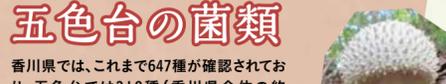
ヒロタケ

冬 春 傘は直径4~8cm。柄は非常に短くほとんど無く、傘の下面は鮮やかな赤。広葉樹や針葉樹の傷口から菌が入り、幹などの木材を分解して養分を吸収する白色腐行菌。群生する。



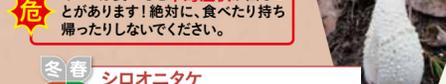
ドクベニタケ(左) テングタケ(右)

冬 春 傘は直径3~10cm。柄は長さ4~8cmの様々な広葉樹や針葉樹と共生関係を持つ腐生菌。森林の林床に散発的もしくは単独で発生する。生食すると中毒することがある。



ドクベニタケ(左) テングタケ(右)

冬 春 傘は直径4~25cm。柄は長さ5~20cm。ブナ科のキノコやタヌキと共生関係が強くハエが寄生することからハエトリタケとも呼ばれる。



ヌルデタケ

冬 春 傘は直径2~5cm。柄は長さ3~5mm。柄と傘の間に粘性のある液体が分泌され、雨や露で濡れると滑りやすくなる。生食すると中毒することがある。



ヌルデタケ

冬 春 傘は直径2~5cm。柄は長さ3~5mm。柄と傘の間に粘性のある液体が分泌され、雨や露で濡れると滑りやすくなる。生食すると中毒することがある。

五色台の哺乳類

五色台は山脈から離れ、平野に囲まれていることから森林が連続せず、「陸の孤島」の状況にあり、小型種にとっては分布を広げにくくなっている。山塊としては広い面積をもち国立公園内で自然環境が比較的保存されている割には、哺乳類の種類は2種と少ない。昔はアナグマが生息していたが、近年の記録は無く、五色台では生息していない可能性がある。



タヌキ

冬 春 頭胴長50~60cm。市街地から森林まで様々な環境に適応して生息する。ネズミやカエルなどの小動物や果実や種子など様々なものを食べる雑食性。



タヌキ

冬 春 頭胴長50~60cm。市街地から森林まで様々な環境に適応して生息する。ネズミやカエルなどの小動物や果実や種子など様々なものを食べる雑食性。